

水田規模拡大に対応できる新たな取組を考える

～水田での飼料作物研修会 県公式 YouTube チャンネル限定配信～

担い手支援課 令和4年8月23日発

米価の低迷により担い手農家への急激な農地集積が進み、一方で、水田を活用して需給に応じた品目の生産が求められています。このような中、子実とうもろこしや稲 WCS は 10 アール当たりの労働時間が水稲より少なく、規模拡大に対応できる品目として期待されています。そこで、担い手支援課では関係各課及び農業再生協議会と連携し、県下では取組の少ない子実とうもろこしと、普及の進んだ稲 WCS について、講義や事例紹介を通じて理解を深めるための研修会を企画しました。水稲及び畜産農家、集落営農組織、関係機関から 160名の参加申込みがあり、関心の高さが伺えました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により実開催は中止し、研修会の内容を動画にまとめ、県公式 YouTube チャンネル上で参加申込者への限定配信を行いました。担い手支援課ではこれからも担い手農家の経営改善につながる情報提供を行います。



栽培に取り組む生産者からのお話



一連の作業を動画で解説